



令和5年度(2023年度)第7号
豊中市立北緑丘小学校
令和5年(2023年)11月1日

つながる学校

- 自分で考え、判断する力を持つ子ども
- 自分で目標に向かって、努力を続ける子ども
- ちがいを認め合い、相手の立場を尊重し、仲間とつながりあえる子ども

後期がはじまりました

秋風がさわやかに感じられる季節になりました。朝晩は寒く感じられます。

10月27日(金)に「のびゆくこども」が渡されました。前期の学習や行事、係でがんばったこと、これから取り組んでほしいアドバイスなど先生たちの思いが込められていました。後半もいろいろな行事もあります。一つひとつしっかり頑張っていってほしいと思います。

全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日に6年生を対象として全国学力・学習状況調査が行われました。この目的は児童生徒の学力や学習状況を把握し、今後の教育に役立てることです。ですが、結果については正答率が高ければがんばっていると評価されてしまっている面があるようです。改めて当初の目的を大切に、授業改善のヒントとしていきたいと思います。

なお、文部科学省HPに調査問題が掲載されています。

国語

よくがんばっているところ

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる
- ・日常よく使われる敬語を理解している
- ・必要なことを質問しながら聞き、聞き手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えられる

課題・これからの改善点

- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけられる
- ・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめられる

2二の問題では2つの資料をまとめたメモの空白の部分を考え、適切なものを選ぶ問題です。メモ前半に対して「きん力を高める運動」であることはほとんどの人が理解できていましたが、前半と同じ「たくさんの酸素を取り入れながら続ける」と答えてしまった人が4割近くいました。答えは資料1に書かれてあるのですが、離れたページに資料があったので見づらかったかもしれません。資料をじっくり見直す必要があると感じました。

3二では2人にインタビューした谷さんの考えを与えられた条件に合うように作文する問題です。2番目の条件「寺田さんと山本さんの発言の中から言葉や文を取り上げて・・・」はできていても「2人がどのような思いでボランティアを続けているのか」についてできていない人が多かったです。どの部分が条件に合うのか、アンダーラインをひいたりしてわかりやすくするのも方法の一つだと考えます。

算数

よくがんばっているところ

- ・正三角形の意味や性質について理解している
- ・百分率で表された割合について理解している

課題・これからの改善点

- ・()を用いた式や加法と情報の混在した式を場面と関連付けて読み取ることができる
- ・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる

1 (3)の問題はイス4きゃくの重さから48きゃく分の重さを求める方を式や言葉を使って書く問題です。これには2つの方法が考えられます。

A: 全体の数が4きゃくの12倍であるから、全部の重さを求める方法

B: イス1きゃく分の重さを求め、そこから全部の重さを求める方法

どちらもミスが多かったのは、「計算式と答えはあっている」が「説明が不十分」というところです。

A: 48きゃくは4きゃくの12倍、だから4きゃくの重さを12倍して……

B: 1きゃく分の重さは○kg、だから48きゃく分の重さは……

1割ぐらいの人が、上の太字の部分を書いていませんでした。

2 (4)は2つの三角形の面積について「同じ」と答えられた人は多かったのですが、「底辺と高さが同じ長さだから」と両方応えられなかった人がやはり1割近くいました。例示された図には確かに「高さ」は書かれていませんでしたが、「テープを直線で切った」ところから高さが同じだということがわかります。

上2つの問題に共通することは「**計算式では正解を出せる**」けれど「**言葉や数を使って説明する**」ことを苦手とする人が一定数いるということです。昨年度も書きましたが、今までは、「式と答えを解けばOK!」と思われていました。しかし、今は「数学的な見方・考え方」を大切に、**言葉を使って考える問題の方が重要視されている**傾向にあります。

本校でも算数科において、「数学的な考え方」を生かして問題をどのように解いたらいいか見通しをもって取り組むことを大事にする研究をしているところです。これからの課題としてとらえていきたいと考えています。